

国宝天守保存リレー講座・松本城

## 未来に伝える松本城 ～住民が買い戻した天守～



### 松本城

国宝：昭和11年(1936)に国宝保存法により国宝指定  
昭和27年(1952)文化財保護法により再び指定  
史跡：昭和5年(1930)史蹟名勝天然記念物保存法により指定



### 松本城の概要



#### 松本という地

- 古代には国府が置かれた
- 信濃守護・小笠原氏の居館（井川城）
- 内陸の複合扇状地
- 湧き水が豊か
- 街道が集まる交通の要衝
- 江戸時代は、信州一の商都
- 松平直政 松本から松江へ



### 松本城の構造



#### 城郭：武士の居住域

本丸(天守)  
二の丸(二の丸御殿)  
三の丸(上級家臣の武家屋敷)

#### 城下町：町人の居住域

13の町  
親町3町(本町、中町、東町)  
枝町10町(伊勢町・小池町・飯田町など)

#### <都市の人口構成>

- 松本町の人口は多いときで1万2千人ほど
- 武家屋敷に住んでいる人6,072人  
※領内の人口は10万5千人ほど



『善光寺道名所図会』 天保14年(1843) 松本城下 初市の様子

「...城下の町広く、大通り十三街、町数およそ四十八丁、商家軒をならべ、当国第一の都會にて、信府と称す、相伝ふ牛馬の荷物一日に千駄附入りて、また千駄送るとぞ、實に繁盛の地なり...」



松本は様々な街道が集まる接続インターチェンジ  
城下町松本には物資と人が集まる

**中山道**  
松本藩領の塩尻・洗馬・本山宿を通過

**善光寺街道(北国西街道)**  
洗馬宿から松本城下を通り、善光寺へ通じる

**千国街道(塩の道)**  
松本から、日本海側の糸魚川

**三州街道**  
塩尻宿を経由し、三河国(愛知県)岡崎へ

**武石道・保福寺通り**  
上田方面へ

**野麦街道**  
飛騨高山へ

### <松本城 略年表> 主に松本城築城まで

建武2(1335)	このころ小笠原氏が信濃守護として井川の館住む
延徳元(1489)	このころ小笠原氏が林の館(林城)に移る
永正元(1504)	小笠原氏一族で家臣の島立右近貞永が深志城を築城か?
天文19(1550)	武田信玄が小笠原長時をやぶり、松本平をおさめ、深志城を新しく造りかえる
天正10(1582)	・武田氏滅亡後、織田方の木曾義昌が深志城主 ・本能寺の変で織田信長滅亡後は上杉景勝の後ろ盾で 小笠原洞雪が城主、その後徳川家康の支援を得心笠原貞慶が父・長時の領地を回復し、深志を松本に改める
天正18(1590)	石川数正が松本城主になる
文禄2~3(1593~94)	このころ松本城天守などが建てられる

その後 小笠原氏、戸田氏、松平氏、堀田氏、水野氏、戸田氏が城主が変わり、明治維新をむかえる

### 松本城周辺の地形図





1 松本城の危機を救った2人



市川量造と小林有也



市川量造先生  
先生は明治五年  
天守取りこわしの際  
幾多の困難を克服さ  
れて天守の保存に  
貢献された



松本城保存功労者のレリーフ

小林有也先生は明治三十五年  
松本城保存会をおこして十二ヶ年を費やして荒廃した天守を修理された

### 明治～大正時代 松本城天守の危機

- ① 売りに出され、取り壊されそうに
- ② 崩れ落ちそうな天守



明治40年頃の天守

それを救った2人の人物

### 売りに出された天守

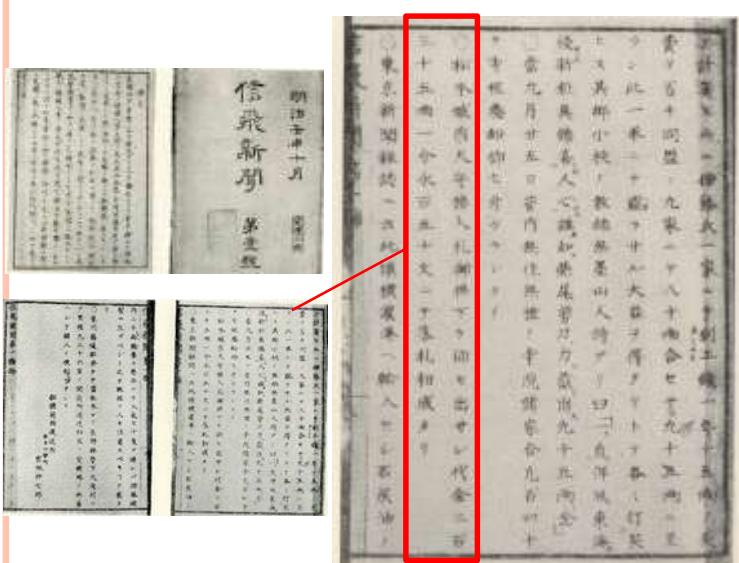


松本城見取図

明治5(1872)年1月  
天守・門・櫓・塀など競売に  
かけられる

金309両1分余で払い下げ  
うち天守は235両1分150文  
で落札

## 明治5年(1872)10月の信飛新聞



## 明治4年 市川量造が筑摩県参事である永山盛輝宛てに提出した「建言書」



- 海外で博覧会が盛ん、近頃、東京などで博覧会開かれた
- 仲間同士で筑摩県下各地で博覧会を開きたいが良い会場がない
- 松本城の天守は、二百三十円ですでに落札されている
- 地方の町としてはかなり立派なもので、博覧会を開くには適切な所
- 明治政府が唱える富国強兵も、つまるところ、人々が見たり聞いたりする自由を得ようとすることが目的
- 天守の落札金は、同志を募って納め天守を買いもどし、本丸の地租も納めたい。天守の拝借許可をお願いします

第八区 下横田町副戸長  
市川量造 印

壬申 11月27日  
筑摩県参事 永山盛輝殿

## 市川量造

博覧会を開催し、売られた天守を買い戻した

松本城を解体の危機から救った

- 弘化元年(1844)城下町の下横田町の名主の長男として生まれた
- 文久2年(1862)18歳の時、蚕卵紙を外国籍の船に売り込もうとして単身で横浜へ出る
- その後2年間、水戸で水戸学を学ぶ
- 明治5年から下横田町の戸長、県の諸問題を議論する下問會議創設を提唱し、開設される
- 同年松本で最初の新聞「信飛新聞」発行
- 明治6年から議員として活躍



明治4年3月撮影 26歳

## 市川量造の建言書と筑摩県の対応

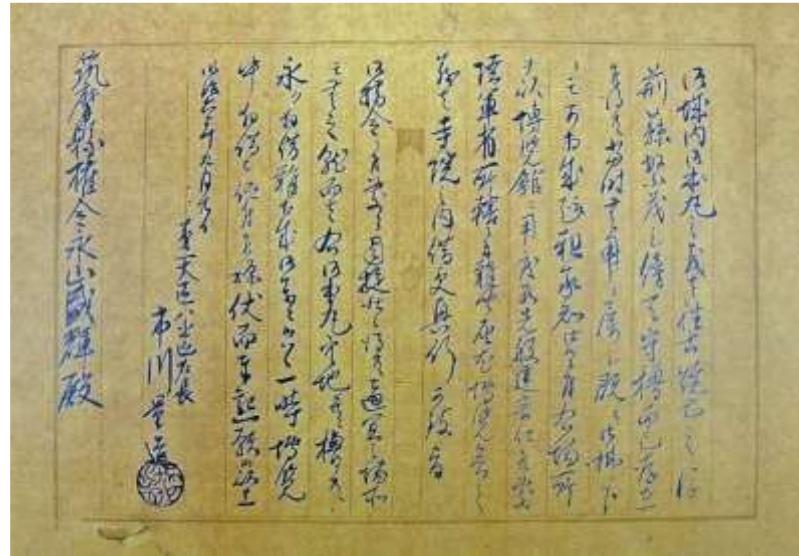
- 松本城を博物館として昔の品々を展示して人々の知識の啓発を図り産業の振興を進めたい。
- 会場となる松本城が競売により落札されているので、その落札金を支払い、更に本丸にかかる地租(固定資産税)も払う。



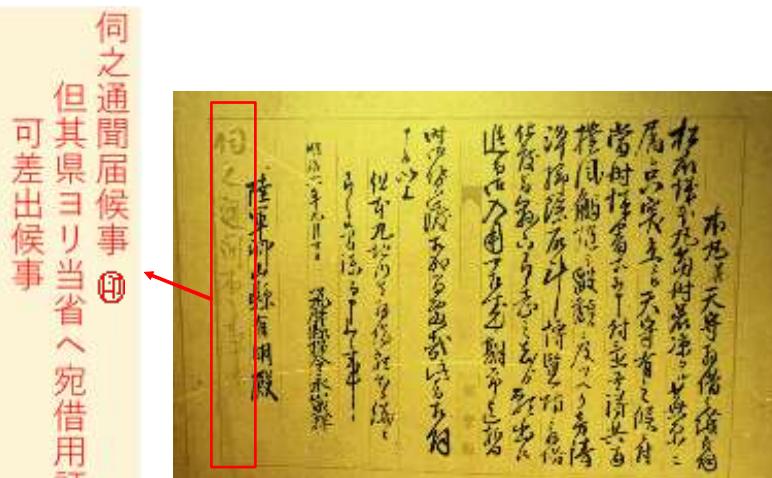
博覧会場として、松本城を確保し、収益で買い戻したい

筑摩県の判断  
寺院等を借りて行うように ⇒不許可

市川量造が筑摩県令永山盛輝に提出した「懇願書」  
明治6年9月廿日



筑摩縣權令永山盛輝から陸軍卿山縣有朋宛の伺い状  
明治6年9月20日



松本城本丸は、ずっと昔御殿が焼けて後、草がたくさん生い茂り天守、櫓だけがありました。そしてもう無用となり、払い下げられる理由についても直接承知しております。そこで、本丸天守を博覧館に使用したいと、さきごろ建言書を提出致しましたところ、松本城は陸軍省所轄であり、許可できないとのことでした。博覧会場のことは、寺院を借りて行うようにとご指示をいただきましたので、あちらこちらとお願いを致しましたが適切な場所がありませんでした。については、松本城本丸空き地並びに櫓を長い間お借りすることが難しいということでしたら、博覧会中の一時期だけはお貸しくださいますよう、伏して切にお願い申し上げます。

明治6(1873)年9月20日  
第一大区八小区戸長  
市川量造 印

筑摩縣權令 永山盛輝殿

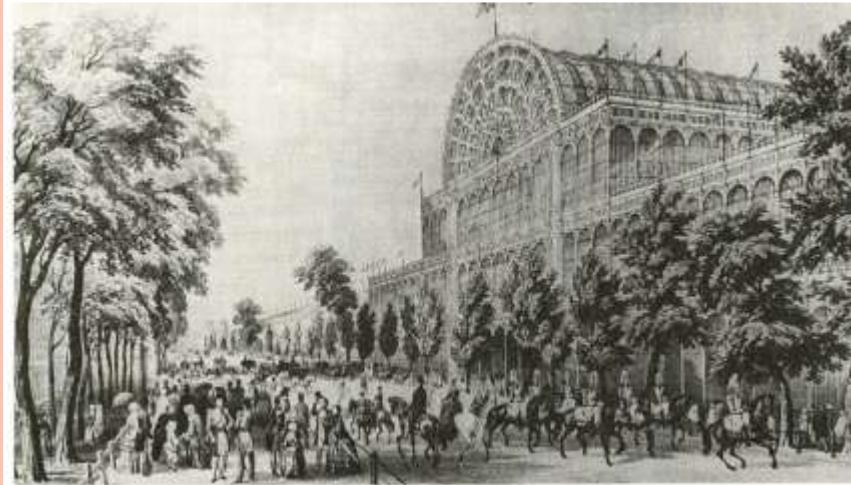
松本博覧会につき筑摩県達

- 博覧会は、物事の道理を知り明らかにして、学問の向上、産業の振興に役に立つことはいうまでもない
- 松本での博覧会開催を許可する。11月1日から約30日間
- 自他の推薦を問わずもっている物を速やかに博覧会場に持ってきて出品し、いっしょになって盛り上げるよう取り組みたいものだ
- 博覧会が、人生の役に立ち利益になるということは世間一般の道理として知られ決して疑うことではない
- 先ずは博覧会の目的を考え、趣旨を通達する

明治6(1873)年9月27日 筑摩縣權令 永山盛輝

## 博覧会

- 1851(嘉永4)年 第1回ロンドン(世界初の博覧会)クリスタル・パレス(水晶宮)
- 1853(嘉永6)年 米国ニューヨーク博覧会(ブライアント公園)
- 1855(安政2)年 仏国パリ博覧会(シャンゼリゼ産業宮)
- 1862(文久2)年 第2回ロンドン博覧会・竹内遣欧使節団(正使:竹内下野守保徳  
福沢諭吉、松木弘安、福地源一郎等総勢38名)をヨーロッパに派遣
- 1866(慶応2)~68(明治元)年『西洋事情』(福沢諭吉著)出版…博覧会
- 1867(慶応3)年パリ博覧会…日本が初めて出品
- 1871(明治4)年 日本初の博覧会10月10日~11月11日開催 入場者11,455人  
三井八郎左衛門(後三井財閥)・小野善助(金融業者)・熊谷直孝(大商人)  
が主催
- 1873(明治6)年 ウィーン博覧会  
名古屋城の金鯱、鎌倉大仏を模した張子大仏、五重塔模型大太鼓、  
大提灯 等々出品、神社と日本庭園あわせたパビリオン建設

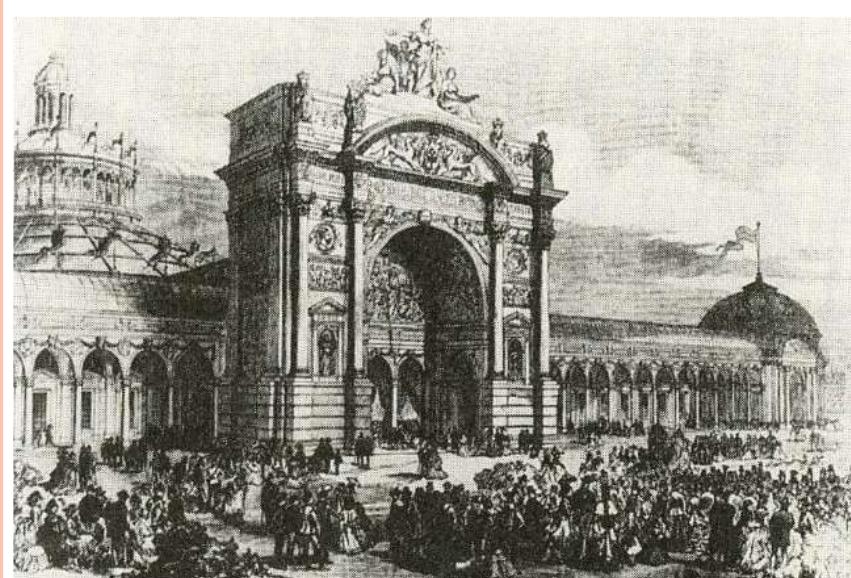


1851(嘉永4)年 第1回ロンドン博覧会のクリスタル・パレス(水晶宮)  
ガラスで組み立てられた建物そのものが展示物



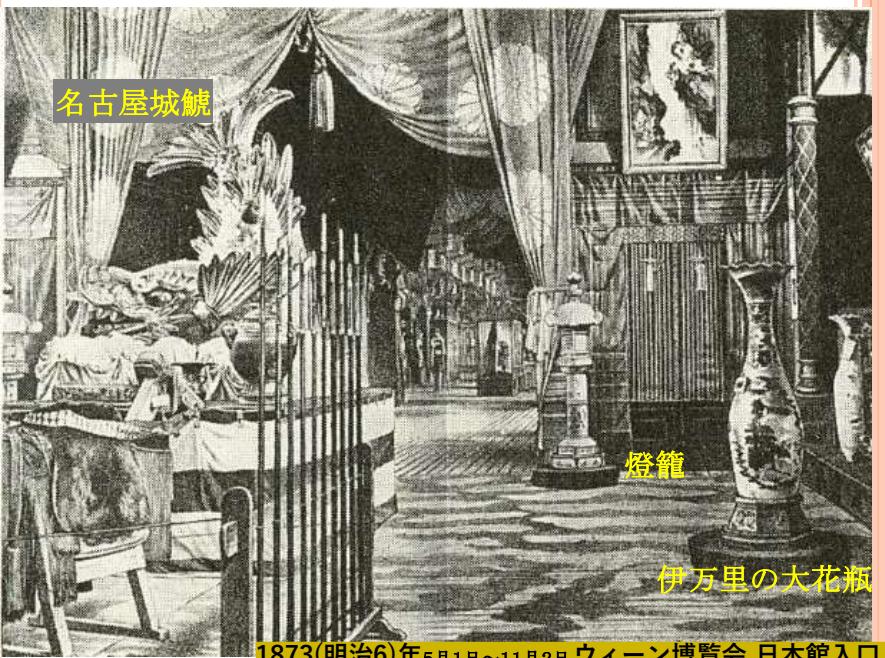
錦絵『元ト昌平坂聖堂ニ於テ 博覧会図』(昇斎一景画)

明治5(1872)年3月10日~4月30日。文部省主催、東京の湯島聖堂大成殿  
での博覧会開催。入場者 192,878人  
ウイーン万国博覧会への出品物を集める目的。



ウィーン万国博覧会南門入口 明治6(1873年)

『日本博物館成立史』(雄山閣) p150



### 第1回松本博覧会 明治6(1873)年11月10日～12月24日 東京博覧会事務局ヨリの拝借品(『筑摩県へ差送候物品目録』)

**書画・骨董品:** 境国博覧会図(二枚)、蝦夷弓矢(二個)、麦藁細工額(一面)、朝鮮笛(一口)、南海ボルネオの用うる処の矢(一本)、和蘭古代之女衣装(一)、薩摩籬(二)、烏帽子折形(二)、北海道草鞋(一)、北海道靴(鮭の皮製)、北海道カンジキ、北海道御幣、北海道水汲、支那カルタ(十枚)、支那阿片の煙管(一)、支那錢(三枚)、朝鮮錢(五枚)、朝鮮墨(二挺)、朝鮮筆(五本)、朝鮮虎之絵(一枚)、朝鮮茶碗、薩摩産竹のふき(三枚)、有田焼、七宝焼き大花瓶

**動植物類:** 鼠(一疋)、西洋犬(一疋)、馳鼠(いたち)(一疋)、ケマフレーン(北海道渡島州江差鷲島産)、ゴミー羽(北海道後志州太櫛郡産)、ウチハエビ(一尾)、サンセウ魚壙入(一尾)、ムラサキ蟹(一)、カスザメ(一尾)、狗母魚(えそ)(一尾)、キンチャク鯛(一尾)、ハコフグ壙入り(一尾)、毒魚(房州産一尾)、虎頭魚(一尾)、紅蟹(一)、トクヒレ(一尾)、コバンザメ(房州産一尾)、ヤッコ鯛(一尾)、トビノ魚(一尾)、檻藤子(一果)、化石(五品)、介類(十二品)、サンゴ類(三品)、硫黄(十品)、石炭(八品)、トラフグ(一尾)、アカメフグ(一尾)、カハハギ鯛(一尾)、アイゴ(一尾)、クツアンコウ(一羽)、モクズガニ(一尾)、信天翁(アホウドリの別名)の羽、信天翁足、コノコ鳥(一羽)



しかし、明治三十年代には、天守がかなり荒廃

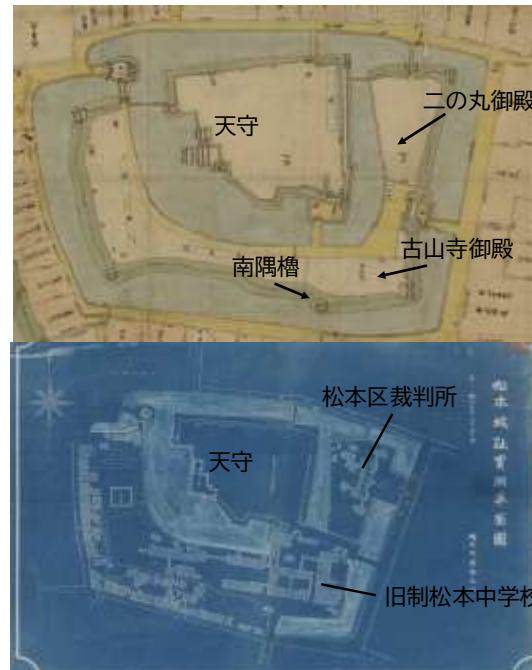
博覧会は好評で、明治6～9年にかけて5回開催  
市川量造により、解体の危機は免れた。

## 小林有也と松本城の修理



2万円程の寄付を集め天守修理に尽力  
工事 明治36年(1903)10月～  
大正2年(1913)11月まで

安政2年(1855)6月1日  
和泉国伯方(はかた)藩江戸藩邸で生まれた  
明治19年(1886)9月、長野県中学校が改称され長野県尋常中学校(旧制松本中学校)となり松本におかれると、校長として着任  
大正3年(1914)6月9日、60歳で在職中に逝去するまで松本中学校に29年間校長として在職



享保十三年秋改松本城下絵図(1728)

○ 二の丸には、二の丸御殿、古山寺御殿が設けられていた

昭和3年 松本城趾實測平面圖

○ 二の丸に旧制松本中学校が置かれ、大正8年頃から外堀の一部が埋められ、昭和3年頃までには大部分が埋められた  
○ 二の丸御殿跡に裁判所が設置される

## 旧制松本中学校の設置



### 小林校長は県と町の意向のいたばさみ

<本丸の使用方法について>  
長野県 ⇒ 中学校の校庭にする  
松本町 ⇒ 公園として城跡を保存したい

県と町の意向が異なる 小林校長は板挟みとなる  
結局、校庭とすることが決定  
町の意向を活かすには、修理を進めることが必要と判断

明治34年6月	天守閣保存のための協議開始
7月	松本城天守閣保存会発足 会費制 予算7300円 工事は上層から
35年9月	修繕願いを出す
11月	許可
36年6月	松本城天守閣保存会総会 工事着手
10月	



明治39年 松本中学校校庭運動会における仮装行列の様子  
『深志物語』上



明治40年代の天守

明治～大正時代の修理中の天守 (明治40年代)



明治の修理で、天井にプレース、  
壁に筋交いの補強が行われた

天守4階

天守4回は、戦となった場合に  
城主が控えている場





## 天守5階

天守5階は、四方に破風入込みの間がある。戦闘時には、軍議(作戦会議)が行われた場と言われている。

壁に筋交い補強が行われた



明治の修理で塗り足された壁



明治～大正期の修理によって、倒壊の危機は免れたが、一部が改変された



大正3年(1914)6月28日小林有也校長先生の葬儀



### 昭和20年の地震被害

⇒ 昭和の大修理

昭和20年 1月 三河大地震が原因で、天守の壁に亀裂  
⇒ 大戦末期で、修理できず

乾小天守の屋根が落ちそうになり、支え柱6本で支えられている

昭和25年  
天守全景

### 昭和の大修理 市民あげての保存運動



### 昭和の大修理 初の解体修理

昭和20年 1月 三河大地震が原因で、天守の壁などに亀裂  
(大戦末期で、修理できず)

21年 11月 連合国軍総司令部(GHQ)の美術顧問  
文化財の保存状況の調査で松本城を訪問  
⇒ 文化財としての価値を認め、地震や経年  
劣化損傷から解体修理の必要性を認める

23年 東京国立博物館保存修理課長の大岡實  
東京大学教授・藤島亥治郎 調査  
根本的な解体修理を行う必要性提唱

25年 国による国宝天守解体修理工事第1号

### 土台支持柱の発見

- 土台の寸法・材種の調査実測が終わったころ、築城時に杭を打ち込んでその上に土台を敷いたという説があることが話題になった
- 昭和27年3月3日に再調査をしたところ、土台の下に穴が見つかった
- 殆んどは木は腐り穴だけであったが、1本だけ原型に近いものが残っていた



昭和の大修理で発見された土台支持柱

改修の痕跡  
復原していない部分



6階に回縁

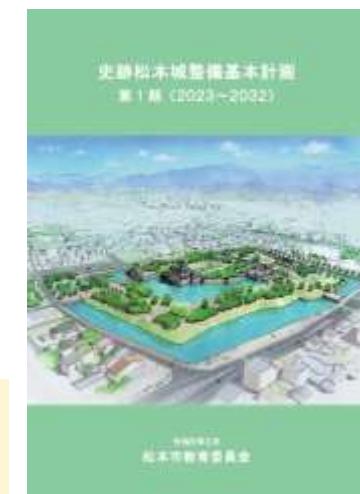
2連の千鳥破風

西側に切妻破風  
北側に千鳥破風

## 軟弱地盤に築城する工夫



史跡松本城整備基本計画 「幕末期の松本城の姿を可能な限り具現化」



<史跡松本城整備基本計画とは?>

- ・整備基本計画とは、史跡の保存・活用を実行していくための計画（第1期 2023～2032）
- ・史跡松本城の保存・活用のルールブックである「史跡松本城保存活用計画」(平成28年9月策定)で定めた方針を、いつ、どのように実現していくのか、整備の具体的な方法や事業計画等をまとめたもの



史跡松本城整備基本計画HP

## 第1期(2023~2032)の整備内容



## 南外堀の石垣 発掘調査で発見

## 2 南外埠の調査成果

### (1) 南外期の石城(三の丸側)

A・B・C・Mの各トレンチで、三の丸側の石垣を確認した。Aトレンチの残存状況が最も良く、5段の礎石が確認された。その他のB・C・Mトレンチは、根石の一部は残存していたものの、大部分が破壊を受け、散乱していた。



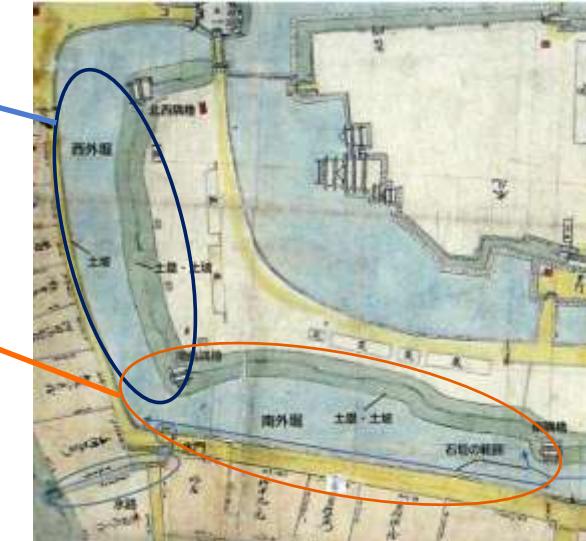
南·西外堀復元 復元要素

<西外堀>

- 土墨、土坡
  - 木杭列、隅櫓（西北隅櫓）

<南外堀>

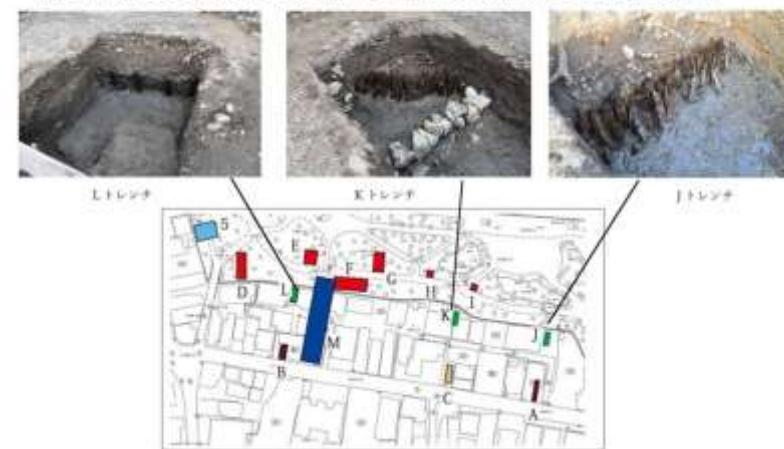
- ・土塁、土堀
  - ・土坡
  - ・隅櫓(南隅櫓・南西隅櫓)
  - ・石垣(三の丸側・南隅櫓周辺の腰巻石垣)
  - ・木杭列
  - ・水門



### 南外堀 二の丸側の水際に木杭列

## (2) 南外堀の亂抗(二の丸御土塁難波

これまで実施してきた松本城址周辺の発掘調査では、土塁裏面に乱坑が剥けられていることがわかつていて、外堀については、令和3年度の調査により、地盤と同様に乱坑があることが判明した。この乱坑は、土留と防護用(先の突いた杭)の用途があるものと考えられる。このような状況は、米沢城でも出土例があり、「大原坂の築郭屏風」にも描かれている。



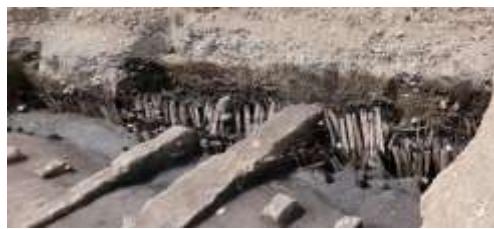
## これまで松本城総堀跡で発見された杭の事例



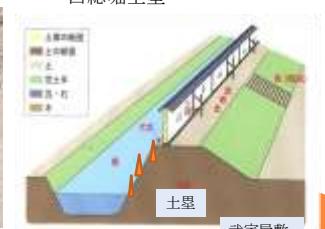
東総堀(市役所東庁舎脇)



西総堀土壘



西総堀(土居尻第5次調査:H26年調査)



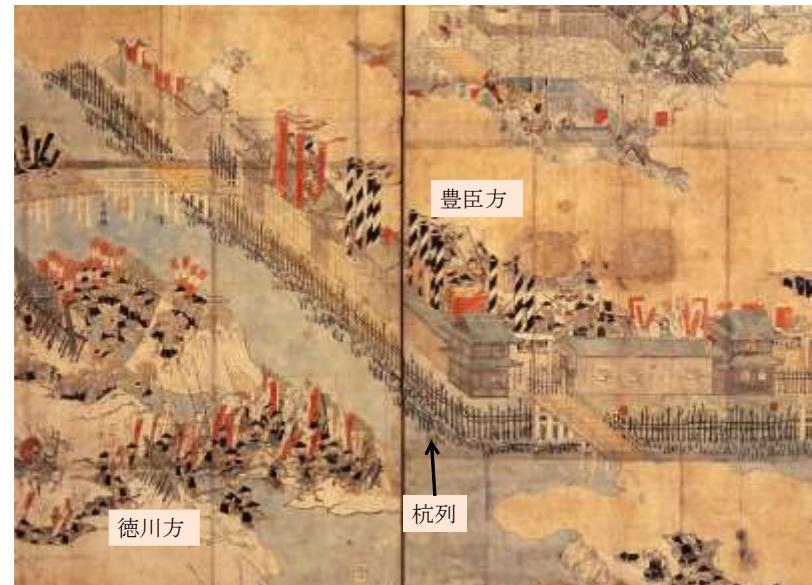
土壘模式図

## 今、松本城を守り伝えている人々



松本城を松本市深志三丁目 漆器店経営 碇屋さん  
先代の碇屋儀一氏が松本城の昭和大修理時に下見板の漆鑑定。  
昭和41年から 漆塗り、老朽化の修理等を担う

## 大坂冬の陣図屏風にみられる大坂城の木杭列



## 天守床修理



刻苧(こくそ)...木地の傷や接合部  
を埋めて接着させる材料



修繕箇所が大きい場合は埋め木をあ



刻苧かい1回目

## 子ども床磨き



## 松本城を未来へ…

